

本年度（令和6年度）の学校評価

本年度の重点目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究型の学習を確立するとともに、観点別学習状況の評価に則り適切な評価を行い、根拠ある評定付けを行う。</li> <li>・ICTを適切に学習活動に取り入れ、その活用を図る。</li> <li>・総合的な探究の時間を、探究型中高一貫教育校の学習内容として適切なものにブラッシュアップする。</li> <li>・「県立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する方針」（上限方針）の内容について職員が理解するとともに、部活動の在り方について働き方改革の観点から見直し、可能な改善策を実施する。</li> </ul>		
項目(担当)		重点目標	具体的方策	留意事項
学習指導 (教務部) (進路指導部) (学年会) (各教科会)	①進路実現に必要な学力の定着と家庭での学習時間の確保	授業内容や生徒の姿に応じてICTを活用し、魅力ある授業を展開する。また、ICTを主体的に学習する姿勢を身につけさせる道具として活用する。	関係分掌・教科・学年と連携し、課題の工夫、家庭学習時間の把握に努めるなどして、学習の習慣を定着させる。ICTを手段として積極的に活用できるようにする。	
	②新しい時代に必要となる資質・能力の育成	自立した人間として、他者と協働しながら創造的に生きていくための資質・能力の養成を図る。	生徒に資質・能力を育むために「主体的・対話的で深い学び」の視点で、指導と評価の一体化を意識した授業改善を進める。	
	③教員研修の充実、授業の改善	研究授業や公開授業をとおして、授業内容の改善を図る。	計画的に実施する。情報等を共有し、生徒や外部による評価を反映させる。	
進路指導 (教務部) (図書・研修部) (進路指導部) (学年会) (各教科会)	①3年間を見通した系統的進路指導計画の確立	生徒・保護者の進路意識と社会情勢の変化に対応できるよう、系統性のある進路指導体制を作る。	国際理解教育を通し、キャリア支援を実施する。また、家庭に向けた情報発信に積極的に取り組む。	
	②生徒及び教員の進路意識の高揚	本校の進路指導の在り方に関する教員間の共通理解を促進させる。	研究会等に多くの教員の参加を勧め、情報を共有し、発信を多面的に実施できる体制づくりを目指す。	
	③国際理解教育の充実	大学や研究機関との連携を積極的に図る。外部講師を招いての講義や長期留学生受け入れ・派遣、国内外プログラムを実施する。	全校的な組織的取組体制をつくり、内容の充実と円滑な実施を図る。	
生徒指導 (生徒指導部) (保健部) (学年会)	①いじめの早期発見・早期対応	いじめを把握するために心のアンケートを年に3回実施する。	学校いじめ防止基本方針に基づき早期発見・早期対応を心がけるとともに、水面下のいじめにもアンテナを高くしていきたい。	
	②心身ともに健康的な学校生活の確保	相談活動を充実させ、生徒の心の問題に適切に対応する。スクールカウンセラーを有効活用する。	教育相談委員会と特別支援教育委員会において生徒の状況を把握し、情報を共有することで問題への速やかな対応を図る。	
	③清潔な生活環境の整備	美化意識を高め、積極的な清掃活動を推進する。	清掃状況の点検、ごみの分別指導を行い、清掃活動を充実させる。奉仕活動も推奨する。	
その他 (総務部) (特別活動部) (教務部)	①家庭や地域との緊密な連携	西尾高校をとりまく地域の課題についての意識を高める。	防災教育や地域資源の在り方について考え、意見を交わす機会を設ける。	
	②学校行事を通じた自己有用感の育成	球技大会と学校祭を中心とする学校行事において、生徒ひとり一人が自分の得意とする分野での力を発揮できる場面を提供する。	学校行事を通じて集団の中で行動する力を身に付け、他者とともに自分の能力を発揮することができる生徒の育成を目指す。	
	③校務のICT化と個人情報管理	情報管理の徹底とスクールエンジンを中心としたネットワークを活用する。	個人情報取扱いの意識を高める。各分掌との連携をとり、無駄のない効率よい活用を考えていく必要がある。	
学年	3年	生徒個々に応じた進路実現	多様な生徒に対して、全体指導や個別指導、進路講演会、総合的な探究の時間を通して、適切な指導・助言を与える。	生徒個々の目標の達成に向けて、置かれている状況等に応じた長期的な計画を立てさせ、学校での学習を大切にさせながら支援する。主体的に、最後まで粘り強く学習に取り組ませる。
	2年	生徒個々に応じた学力の充実と進路学習	進路行事・面接を充実させ、総合的な探究学習とも連携しつつ授業・課題を密接に連携させ学力充実を図る。	全体指導と具体的・個別的な学習指導・進路指導とを有機的に組み合わせた指導を継続的に行い、生徒の意欲を喚起する。
	1年	適切な類型（文理）選択	面接や講演会を通じて将来像をえがく。自分自身を深く知り、職業や大学の研究を行う。	学校生活を充実させ、基礎学力の定着をはかる。適切な将来設計ができるよう、担任団でチームとして指導する。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別学習状況の評価に則り適切、かつ根拠ある評価を実施する。</li> <li>・ICTを適切に学習活動に取り入れ、その活用を図る。</li> <li>・教員の働き方改革に向けて、時間外在校時間等の上限を超えないように、部活動の在り方を検討や業務の平準化等に向けた取組を実施する。</li> </ul>		